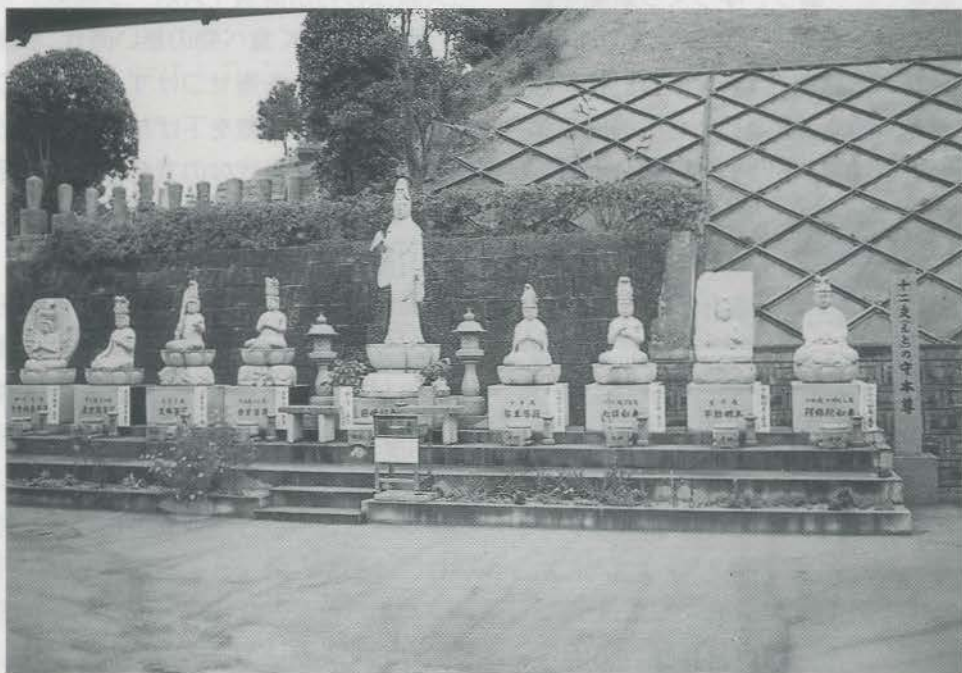


光市医師会報

平成9年12月号

No. 302



千支の守り本尊

光市医師会

〈会員広場〉

第59回臨床外科学会へ出席して

富 恵 哲

四年間出席せぬと評議員の職を解かれるとの事で、11月13日、14日、15日の三日間の中、二日間のみ出掛ける事とした。

朝、6時58分、徳山発の新幹線で出発。朝食を食堂車でとり撮り、ゆっくり新聞を読んでいるともう神戸のアナウンスである。早いもので9時過ぎには新大阪着。在来線に乗って大阪駅へ引き返したものの出口がわからずうろろう。そう云えば随分大阪には来て居ないなと独りで苦笑い。

9時40分、会場のロイヤルホテルへ到着。早速、登録料一萬五仟円也を払って、名札、バッジ、を貰う。シンポジウム、特別講演、教育講演と時間を調整して会場を渡り歩く事とする。メイン会場、サブ会場は殆んど三階なので助かる。シンポジウム「新しい鼠蹊ヘルニア手術」を聞く。メッシュプラグを使用しての手術法を取りあげ盛んに討論をしている。十数年前、金沢であった臨外学会で、ヘルニア手術法を討論していた事を思い出す。何故か岐阜歯大付属病院の外科が後壁の作り方を色々説明していたのが記憶に残っている。ヘルニア門にメッシュプラグを入れ、後壁をメッシュで補強しているビデオを見て一寸考えさせられる。手術から離れて四年、若い人の発言を面白く聞かして貰らい2時間はあっという間に終了。

最近、ランチヨンセミナーを行う学会が多い。ランチヨンセミナーでは山大二外、岡

教授の「消化器癌の免疫」の話に興味深く聞く。又、免疫が脚光を浴びるのかなと考えて聞いた次第。

今年の企画は一寸変わって、古橋広之進日大教授の特別講演「スポーツ雑感」を聞く。戦後間もなく食べ物の無い時代、水泳に関してアメリカを寄せつけず、すべての記録を塗り替えて溜飲を下げた事を思い出し感無量。私達の世代なので余計感銘を受ける。記録を出すまでの努力を淡々と話して居られる。

再発乳癌のシンポジウムに一寸顔を出す。癌研の霞先生の司会で進んでいる。興味があったものの鍋谷欣市教授の教育講演の方へ移動。「勿忘診療録」と題して外科医の歩み方を論じてくれた講演である。“同じ過ちを二度とせぬこと”“最も重き病より考うべし”“よもやと思うところに病あり”“再手術をためらうことなかれ”“治療手段を諦めるべからず、窮余の一策でも盡くすべし”。項目を挙げて一時間余り話されたが外科医の心すべき事であろう。ついで同じ会場で淀川キリスト病院のホスピス長、柏木哲夫先生の“ターミナルケアと緩和医療”の教育講演を拝聴。ターミナルケアで有名な淀川病院で、これからの老人の医療の在り方を経験から話されたので納得。特別に厚生省から金が出ている様であったが、とても現在の医療費では賄えないであろうと思った次第。時間があったのでパネル“外科診療報

酬の適正化にむけて”へ出席。超満員である。厚生省保険局のお役人も出席して発言している。まるめの問題、検査、処置、手術に対して発言、討論。フロアーの会員、案外大人しく聞いて居る。もっと技術料としての配分を多くして貰い度いとの発言に共感。日本人はどうも目に見えない技術への価値の評価が出来ない様である。ついで、評議員会へ出席。会員の動向の報告、学会役員人事等の報告である。昨年より500名の会員増である。医師の増加が将来、医師の立場を如何にするか考えさせられる。将来は広島で学会が行われるとの事、楽しみである。

評議員会が終わったのが7時過ぎ、タクシーでホテルへ帰ったものの疲れて外に出る気も起きない。息子がホテルの近くでうまい酒を飲ませる所があるとメモをしてくれたものの、行く気も起らず、ホテルのレストランで食事をして眠る。

二日目はゆっくり起床。遅れて会場へ入る。シンポジウム「残遺胃癌治療の諸問題」を聞く。約2時間余り。手術の選択、リンパ節の問題、予後等々、若い人の発言を面白く拝聴。ついでランチオンセミナー「胃の炎症と潰瘍、癌との関係」を昼食を食べ乍ら聞く。暗闇なので、箸を使うのが難しい。ランチオンセミナーも良し悪し。

総会、ついで会長講演「癌治療への分子生物学の役割」を聞く。分子学の話となると段々難しくなってくる。

ついで、髟の殿下(寛仁親王)の「癌患者の体験」なる講演である。起立させられている所を、お付きにガードされてものものしく登場。壇上に登っても仲々座らして貰えない。「お座り下さい」と云う言葉を待っているらしい。やっと「どうぞお座り下さい」とのお言葉があって着席。皇族は違うのだと苦笑い。

「私の職業は皇族、スキーのインストラクター」と云ってお喋りが始まる。最初は原稿を読んでいたがその中、本式に喋り出された。食道癌、直腸癌等の手術を此処5ヶ年間に7回されたと淡々と話して居られる。食道癌のオペの際、誤って反回神経を損傷、神経縫合をしたとかで少し嘔声である。自分の経験を話して「先生方はもう少し看護婦さんを大事にしてやって下さい」との発言にいささかびっくり。手術の経験も自分の事なので穿った事をおっしゃっている。スキーの話、オックスフォードへ留学時代のボートの話、手術の後遺症等々1時間の講演もあっと云う間に終了。司会者の「お体を大事になさって下さい」との挨拶で殿下は退場。一寸面白い企画の学会であった。

開業医なので木曜日の午前中を留守にして突発事故の替りを竹中先生に頼み込み、金曜日は若い先生の派遣を病院に頼み込みでの出席である。でも少し新しい「医学のにおい」を嗅いだ様な気のした学会であった。



〈会員広場〉

「山歩き」・「学会記」

河村 康明

先日、少年野球の引率で何10年ぶりに山登りをしました。目指すは光市の最高峰、四百数十メートルの虎ヶ岳。20～30分も歩けば頂上に着くのではないかと安易な気持ちで行ったのが大失敗となりました。(誰も登った事がないので状況を知らないことが後で判った。)朝9時に周防の森ロッジに集合して、光市より説明があり(これは光市のイベントだったのです。)総勢70名が光市職員の先導で少年野球を先頭にして、3才から72才迄の年齢範囲でいざ登山。登山ルートは熊毛側を含めて、3ヶ所位ある様ですが、周防ルートはこの2～3年で有志より開発されました。狩猟の解禁日と重なったために、皆んな大声を出して登れとの注意があり(狩猟組合には連絡済み)、出発しましたが、最初の30分は声を出す余裕は全くなく、登り坂の連続でおとなはずぐに休憩。子供達は小休憩で回復が早いのですぐに出発・歩き始めて10分もしないうちに、皆んなの声が聞こえなくなり、孤独な登山となりました。時々、後の方からオーイと連呼があり、自分達の方向を確かめている様です。30分間の連続登りが終わると自分をとり戻して、尾根伝いに西方向へ、再び30分位歩くのですが、頭にきたのは山頂まであと〇〇〇mのかんばん。(こんなに苦労して登ってきたのに。)途中で下山の人々に会った時は思はず、あとどれ位ですかと尋ねてしまいます。1時間を超す、悪戦苦闘の

末、頂上に到着。展望は想像以上にすばらしく、東は島田川から光井・象鼻岬まで、北は山陽自動車道・周南カントリーを見下ろし、なかなかの景観でした。この一帯が実は山口県東部空港の候補地なのですが、多分、実現性はないでしょう。頂上では子供達はネイチャーゲームなるものをしていましたが、大人はくたびれて昼食後はひるね。準備の良い人達はアウトドアグッズの展示会の如く、酒宴をくりひろげていました。なかなかの眺望でしたので、近いうちに医師会で行ってみましょう。

学会案内

①日本核医学会 11月19～21日 大宮
比較的、開業医にはなじみの薄い学会ですが、ラジオアイソトープ(放射性同位元素)を診断、治療に使用する事を主体にした学問体系の学会です。

余談ですが、レントゲンのX線発見が、1895年で、1896年ベクレルがウラン放射能を発見、1898年キュリー夫妻がウラン鉱石から新元素ラジウムを発見し、アイソトープ平和利用の基礎を築きました。これらの事で第1回ノーベル物理学賞がレントゲンに、第3回ノーベル物理学賞がベクレルとキュリー夫妻に、又キュリー夫人にはノーベル化学賞も与えられています。来年がラジウム放射能発見から100年になり、様々なイベントがある様です。現在、ア

イソトープの単位がキューリー(Ci)ではなくてベクレル(Bq)が使われている事を皆様は御存知でしょうか?

アイソトープの使用核種は病気の変遷と関係があり現在は虚血性心疾患を対象としたタリウム、脳血流、痴呆を対象とした脳血流シンチ、腫瘍を目的としたガリウムが主に使われています。

学問的な興味は少しピークをすぎた感がありますが、これからは分子生物学とタイアップした様な学問体系になるのでしょうか。又、放射性物質の平和利用の観点からみると、取りあつかい管理がより厳格になっていく事が予想されます。

②日本救急医学会 11月26~29日 新宿
本年度は災害・中毒事件などがなかったため、タイムリーなシンポジウムは無かつ

たが、臓器移植法案が成立したため、厚生省より担当官が来られて、法案の説明がありました。全体の様子はまだ熱したものはなく、模様ながめの状態でトップバッターがどこになるか?を見つめている様です。この学会の楽しみは救命救急センターという閉鎖された社会で数年間、同じ釜の飯を食った仲間年に一度、会える事で出身母体が違うもの程、感激も大きなものです。なかには名前を忘れて、思はずネームカードをのぞき込む人もありますが、時の経つのが早いとつくづく実感してしまいます。展示会の救急用具も年毎に小型化、コンピューター化されて、実地医家向けもかなりあり、それを使いこなせるかどうかが問題でしょう。

11 月度 月間行事

日	行 事	場 所
6	周南三市医師会役員会	明福ホテル
12	定 例 理 事 会	医師会事務局
14	心 電 図 研 究 会	光商工会館
25	11 月 度 例 会 特 別 研 修 会	光商工会館
30	光三師会会員懇親会	下松スポーツセンター・ 下松健康パーク

〔特別研修会〕

『現在の保険医療について』

山口県保険課指導医療官 村田 欣也先生



1. わが国の医療保険

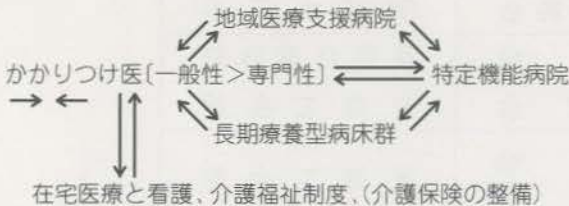
- わが国は国民皆保険体制で、その特徴、
- A. フリーアクセス、患者が何時でも何処でも安価な医療が受けられる。
- B. 自由開業制、医療の熟達度に関係なく、かつ専門性にも関わり無く、同一価格率（一点10円）で診療報酬が支払われる。
- C. 原則出来高払い制で、薬価基準制度である。

2. 保険医療の破綻。

経済の低成長のもと、国家経済の総負債額が増加し、その上、少子化高齢社会となって国民の生産人口が減少傾向を露わにして、国民総生産の増加が見込まれない状況に立ち至っている。特に、高齢者医療の費用の増加が著しく、国民皆保険制が崩壊の危機に瀕している。

3. 保険医療の改革の見直し。

A. フリーアクセスの見直し、医療機関の機能分担と連携の推進。（医療法の改正）



- B. 原則出来高払い制の見直し→一部包括払い制の強化(急性期と慢性期に分ける)と薬価基準制度の見直し、技術中心の医療へ。
- C. 高齢者医療保険制度の創設が考えられている。

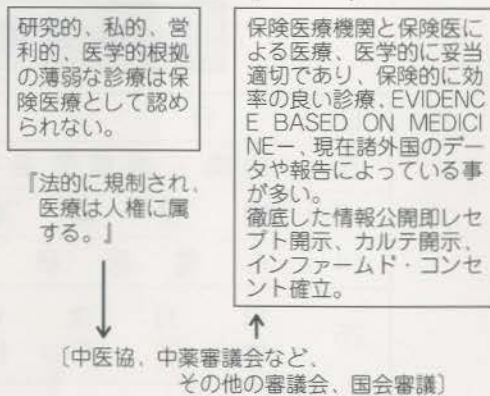
D. 病床および入院医療の適正化、医療従事者の資質の向上と適正確保。病床、医師数の減数。

E. 薬価基準制度の改革→薬価差が生じない仕組み、日本型参照価格制度（案）。

4. 現在の医療保険制度では医学の進歩による医療費の全てと高齢者医療費の増加を賄えなくなった。高齢化に伴う介護問題がある。

5. 現在の保険医療の法制度

医師法、医療法、薬事法、各健康保険法、厚生省の省令＝点数表等



6. 人の健康と命、生活の質の向上とその保障は国民の主権に属するものである。

（先生の許可を得て、当日配布された）
レジメを掲載致しました。

周南三市医師会役員会

日時：11月6日(水) 午後7時～

場所：明福ホテル（徳山市）



出席者：

（徳山医師会）

光永会長、高橋副会長、石川副会長
野村理事、桜田理事、福山理事

（下松医師会）

藤原会長、武内副会長、沢理事
重岡理事、中島理事

（光市医師会）

近藤会長、前田副会長、松村理事
光武理事、河村理事、吉村理事

議題：

1) 平成10年度要望額について

学校医手当、予防接種、乳幼児健診
出務手当等

（提案や意見交換等が多く出されました）
が、その中より抜粋して掲載致します。）

〔予防接種に関する事〕

- 個別接種で、予診のみで接種できない場合は初診でいいのではないかと→基準はないが、取りにくいので取ってもこの程度という事で、今の額になっている。
- 予防接種は、三市の何処でもできるのか→三市が共通しているもので、全部個別

でやっているものは、三市の何処でもできる。（その他広域地区でおこなえる）

- ツ反とBCGは接種する日が違うし、その都度予診をおこなうのだから、ツ反は初診料をもらっているのではないかと→ツ反は初診で取っもいいのではないかと思う。
- その他、光市がツ反・BCGの個別接種をやっていない事に対する質問が出た。
〔学校医の定員に関する事〕
- 児童の数が減っても、校医を減らさないように市と交渉している。
- 校医の人数を減らすのは駄目だと言っている。
- 変化があれば言ってくるので、そのままにしてある。
- 校医の定員は生徒の数の問題ではないと思う。
- 〔休日診療に関する事〕
- 休日診療で、三市で眼科・耳鼻科のローテーションを組んだらどうだろうか。現状は無理でも話題として今後検討してもらいたい。

2) その他

徳山医師会より、徳山看護学校の現状の説明と今後に関しての要望があった。

11月度定例理事会

日時：11月12日(水) 午後7時30分～

場所：医師会事務局

出席者：近藤、前田、梅田、松村
赤崎、河村、吉村

議題：

- 1) 第131回定例代議員会の報告
(近藤会長)
- 2) 郡市労災・自賠責担当理事協議会の報告
(光武理事)
- 3) 郡市地域医療担当理事協議会の報告
(梅田理事)
- 4) 平成10年度医師出務報酬等の検討
(近藤会長、前田副会長)
- 5) 11月度例会について
(近藤会長)
研修会の講師に村田欣也先生をお願いする。
- 6) その他
 - ① 徳山看護学院に関する件 (近藤会長)
 - ② 胃ガン個別検診読影委員会報酬の件

11月度例会

日時：11月25日(火) 午後7時～

場所：光商工会館

出席者：24名

議題：

- 1) 特別研修会「現在の医療保険について」
- 2) その他
- ① 胃癌個別検診の読影料の件

・読影料を1件500円徴集する事を提案し了承される。

・来年度以後の料金の徴集も了承される。

- ② 平成9年度徳山健康福祉センター栄養クリニック実施について
- ③ 医療問題等懇談会の報告
来年の参議選の候補の後援会入会に関して
- ④ 看護問題検討委員会報告書について
周南三市医師会役員について、徳山医師会より看護学校に関して提案があった事に関連して、日医が看護問題に関してどうとらえているのかの説明。

心電図研究会 (第113回)

光市・下松医師会合同

日時：11月14日(金) 午後7時30分～

場所：光商工会館

出席者：12名 (光市会員10名)

症例：

- 1) 75才、♂ (主訴) 胸痛、呼吸困難、胸背部痛 (診断) 胸部動脈瘤
- 2) 57才、♀ (主訴) 胸と背中が痛い (診断) 心外膜炎
- 3) 59才、♂ (主訴) 胸痛—胸がつかえる感じ (診断) 心筋梗塞

胃ガン検診フィルム読影委員会

日時：11月4日・11日・18日—午後7時～

場所：医師会事務局

永年勤続者表彰

今年度の従業員の永年勤続表彰者数

30年—1名、20年—1名、15年—2名

10年—2名、5年—10名、3年—18名

◎ 光三師会会員懇親会 ◎

日 時：11月30日(日) 午後4時30分～

場 所： 1) ボーリング大会—下松スポーツセンター

2) 懇親会—下松健康パーク

出席者：医師会員—11名



(ボーリング大会優勝記)

横 山 宏

私が卒業した頃(昭和45年)は、非常にボーリングが盛んで、いたるところにボーリング場がありました。私の性格からしてやはりボーリングにのめりこみマイシューズ、マイボールはあたりまえで、一人で15ゲームもしたことがありました。その後ボーリングの衰退とともにいつのまにかボーリングと離れるようになりました。今回は何年ぶりかのボーリングで、150もだせば御の字とと思っていましたが、何を間違ったのか203という全盛時代にもなかなかだせなかったスコアをだすことができ自分で自分に驚いている始末です。このような良い思い出をつくっていただきました歯科の幹事の皆様方、一緒にプレーしていただきました富恵、平田両先生に感謝します。本日はどうも有り難うございました。

(ボーリング大会成績表)

順位	名 前	1G	2G	スラッシュ	Hcp	総計
優勝	横 山	203	139	342	0	342
2位	河 村	162	135	297	0	297
3位	清 木	89	168	257	0	257
4位	塚 原	88	129	217	20	257
5位	佃 ^研	136	115	251	0	251
6位	平 田	101	143	244	0	244
7位	森 本	129	110	239	0	239
8位	富 原	100	99	199	20	239
9位	富 恵	82	116	198	20	238
10位	竹 中 ^昭	108	83	191	20	231
11位	儀 本	112	114	226	0	226
12位	近 藤	97	114	211	0	211
13位	清 水	98	109	207	0	207
14位	及 川	73	124	197	0	197
15位	田 崎	72	79	151	20	191
16位	吉 村	43	103	146	20	186
17位	松 村	89	75	164	0	164
18位	浜 田	35	78	113	20	153

ⅢⅢ あとがき ⅢⅢ

カレンダーも最後の1枚になりました。振り返って、この1年は気象の異常が大変多かったように思います。それに歩調を合わせるように、医療業界を取り巻く環境も大変異常で、厳しい状況におかれまして。とりわけ保険法の改正は大変な混乱と打撃をこうむりました。来年も医療情勢は暗い状況がつつくものと思われまます。

12月23日は煤払いの日です。これは単に清掃をおこなうというのではなく、信仰的な行事で、正月を迎える物忌みの始まる日と言われております。この日は悪疫(悪法?)という煤を払い除け、団子や餅あるいは雑炊・粥などを神仏に供えて、来るべく新しい年の医療情勢の好転を願いたいものです。

三師会のポーリング大会には医師会から多くの出席がありました。私は取材と応援と言う事で会場に出かけてみましたら、人数が足りなくなったので競技に出て欲しいと言われましたが、なにせ今迄に一度しかした事がないのでお断りしたのですが、駄目でした。パートナーの河村先生と及川先生にボールの持ち方から手ほどきを受けましたが、ボールは溝の煤払いばかりして冷や汗ものでした。ポーリングと言うのは、ボールを転がす競技かと思っておりましたが、ボールを投げる競技とは知りませんでした。取材に行ったのか、恥をかきに行ったのかわかりませんでした。

市内のお寺で「干支の守り本尊」というのを見かけましたので、表紙の写真に使ってみました。案内板に「昔から、仏様の世界では私たち1人ひとりの生まれた年に守り本尊が定められています。……」と書いてありました。十二支は農業暦に基づいており、来年の干支の「寅」は「眠れる獅子」のごとく草木の芽が土中でじっと生育を待っている状態を意味するのだそうで、神頼みだけではむなしいかもしれませんが、守り本尊により来年は我々を取り巻く情勢が明るいきざしが見え、生育を待ちたいものです。

もう間もなく最後の1枚のカレンダーを取り除こうとしております。年令のためでしょうか、月日の流れて行くのが早く感じられます。

「昨日といひ けふとくらして あすか川 流れて速き 月日なりけり」(古今和歌集)
会員の先生方、よいお年をお迎え下さいますよう。(吉村)

発行所	光市医師会 TEL 0833 72-2234
発行者	近藤龍一
編集者	広報担当
印刷所	光市光井一丁目15番20号 中村印刷株式会社